

宮下知事 公私連携に意欲 私立高校長と初の対話集会



私立高校の現状について認識を共有した対話集会＝14日、青森県庁

青森県の宮下宗一郎知事は14日、県内全17校の私立高校の校長らと人口減少や私学助成、若者の県内定着をテーマとした対話集会を開いた。県側が私立高を集めて意見交換を行うのは初めて。宮下知事は「高校の多様性を失ってはならぬ」と述べ、公私が連携し

た上で県内の教育環境を充実させることに意欲を示した。

私立高を巡っては、学校側が毎年、県に私学助成の拡充などを要望している。一方で宮下知事はこれまで、財政支援より政策面での連携を重視する考えを強調していた。

同日の集会は、冒頭を除き非公開。出席者によると、学校側は経営状況や抱える課題などについて説明した。

宮下知事は、人口減少で公立高の統廃合が避けられない状況に触れ「生き残りを懸けて教育改革に取り組んでいる。公私合わせて、子どもが成長する機会をつくりたい」と私立校側との関係を緊密にしていく意向を伝えた。

集会後、八戸聖ウルスラ学院高の里村智彦校長は取材に「子どもたちのために何ができるか一緒に考えていければ」と述べ、八戸学院光星高の中村良寛校長は「教育改革への熱意を感じた。人口減少を食い止め、子どもたちを育てていかなければならない」と話した。

(加藤弘也)